

究開発拠点「水素材料先端科学研究センター」の活動支援、水素エネルギー社会を具現化するモデル都市として家庭用燃料電池システムを集中的に設置する「水素タウン」の整備、北九州市・福岡市の2箇所に水素ステーションを整備し、北九州～福岡間に「水素ハイウェイ」を構築するなど、水素エネルギーによる低炭素社会の構築に向けた取組を行っている。

### ●北九州エコタウン

北九州市において、「あらゆる廃棄物を他の産業分野の原料として活用し、最終的に廃棄物をゼロにすること（ゼロ・エミッション）を目指し、資源循環型社会の構築を図る」エコタウン事業を推進している。

響りサイクル団地内に10社を超える企業が進出している。

### ★（G P）アジア各国の国際環境人材の育成

意義と目的	公害克服の過程で蓄積された公害防止技術や3R（リデュース、リユース、リサイクル）、省エネルギー技術などを活かし、アジア各国の環境技術の人材育成に貢献する。
事業内容	福岡県国際環境人材育成事業、北九州イニシアチブネットワーク、アジア環境協力都市ネットワーク、北九州国際技術協力協会（K I T A）の取組を推進する。
既存の取組	県の環境政策人材受け入れ、K I T Aによる国際研修員の受け入れ、市の専門家の派遣

### ★（G P）石炭ガス化・高効率発電システムの開発

意義と目的	石炭は可採年数が石油の41年に比べて147年と圧倒的に豊富な資源であるもののCO2や硫黄酸化物等の環境汚染物質が多く発生する。これらの技術課題を克服し安定したエネルギー源としての利用を図る。
事業内容	大学の研究成果を基に、石炭のガス化及び石炭から生成される水素の高度利用により、高効率で環境負荷の少ない発電システムの開発を目指す。併せて、ガス化した石炭から、現在石油から作られている液体燃料や化学原料の効率的な製造を目指す。

### 拠点化に向けた課題

#### ■新しい環境モデルの構築

世界における環境問題の解決に貢献するため、環境負荷を大幅に軽減する資源循環型の新しい環境モデルを構築する必要がある。

#### ■環境先進都市としてのP R

「水素タウン」「水素ハイウェイ」「北九州エコタウン」などの先進的取組事例を国内外にアピールし、環境先進都市としての地位を確立することが必要である。

### 拠点像3 新しい芸術・文化の創造拠点

#### 概要

当地域は、古来からアジア文化のわが国への窓口であったという歴史を持ち、九州国立博物館ではアジア文化とわが国の文化との相互作用や影響に関する研究を行っている。

また、近年、アジアにおいて若者を中心にマンガ、映画、音楽、食べ物など感性や価値観を共有する文化が広がっており、ゲームコンテンツに関する情報発信、ファッションの拠点としての北部九州のアピール等により、より知名度アップを図ることが可能であると考えられる。

そのため、プロデュース機能や情報発信力を高めることにより、アジアをはじめ世界各地から芸術家、文化人、若者等が集まり、多様な文化が融合する新しい文化芸術の創造拠点となる都市圏像を描く。

#### (拠点像を支える要素)

九州国立博物館によるアジア文化研究、コンベンションの多さ、スポーツ・演劇などのエンタテインメントの豊富さ、若者文化に関する情報発信

#### 施策の方向

##### ○九州国立博物館を核としたアジア文化との広範な交流

太宰府の九州国立博物館は、わが国とアジア文化との文化の相互作用や影響を研究していることから、過去・現在・未来にわたるアジアとの広範な文化交流を深めるための拠点としての活用を図る。

##### ○ゲームコンテンツ・ファッションを活用した知名度アップ

中国や韓国ではオンラインゲームを中心にゲームコンテンツへの需要がますます伸びている。ゲームコンテンツの制作会社の名前の認知度が高いことなどもあり、ゲームコンテンツに関する情報発信やイベントを行うことにより、九州北部への興味・関心・来訪を促す。

また、福岡アジアコレクション（FACo）の開催などを通じ、アジアに対しファッションの拠点として九州北部をアピールするなど、日本発あるいはアジア発のコンテンツの発信拠点としての役割を担うことにより、知名度のアップを図る。